

業務仕様書（案）

1 事業趣旨

県と市町村のシステム等共同化を推し進めるため、特に「RPA 及び AI-OCR」、「AI 音声文字起こし」のそれぞれの技術に着目し、その共同化に向けた在り方（座組み）/課題整理/解決の方向性を探るため、システム共同化に向けた調査事業を実施する。

2 委託業務名

県と市町村によるスマート自治体実証サポート業務

3 委託期間

契約日から令和3年2月10日（水曜日）まで

4 業務内容

以下2つの調査業務を行うため、その実施にあたってのサポート業務を委託する。

1. RPA+AI-OCR 技術の共同化事業実現に向けた調査

(ア)背景

チーム内にて議論の結果、共同化の効果を最大化するためには、単純にライセンスの共同購入だけではなく、ツール自体を共同利用する事で24時間365日の稼働を目指して最大限有効活用する事が重要との認識に至った。そのためには、RPA/AI-OCR ツール及びシナリオの統一と共同運用が必要となるが、先行してそれに近い構想により実証を行われた北海道の事例（NTT アドバンステクノロジー株式会社や北海道が参画した共同実証事業、「道内自治体をフィールドとした共同利用型 RPA の実証実験の実施結果報告書（R 元. 4）」）によると、さまざまな課題がある事が報告されている。それらの課題のうち大きなシステム改修を伴わず検証可能な「インプット（様式）の標準化」、「業務フローの見直し」、「利用環境の設定」に絞り長野県特有の課題の洗い出しを行う事となった。

(イ)目的

RPA+AI-OCR の共同化に向けたファーストステップとして、同一業務において、団体間でどの程度プロセスと RPA シナリオ、インプット様式が変わってくるのか、同じ RPA/AI-OCR ツールを使って、同一業務に対し複数団体でシナリオ作成を行い、結果を比較する事で検証を行う。

(ウ)実施内容

- ① 検証対象業務の選定（1～3 業務を選定予定）
- ② RPA 及び AI-OCR ツールの選定（1～2 ツールを選定予定）
- ③ 参加団体による RPA シナリオ作成と実行（チームメンバー 11 団体を母数と

し、実施団体とサポート団体に分けて実施)

④ 各々で作成され RPA シナリオと業務フロー、インプット様式の比較検証

2. AI 音声文字起こし技術の共同化事業実現に向けた調査

(ア) 背景

チーム内にて議論の結果、AI 音声文字起こしについては「ニーズは明確に存在するが、期待値に届く変換精度を求めるには変換される前の音声データの品質を一定以上に保つ必要がある」事が共通認識として確認された。音声データの品質は録音環境に大きく左右されるが、議会・委員会（個別マイクが準備されているケースが多い）や首長会見（個別マイクはないが、話者が特定される）、一般会議（固定された個別マイクはなく、話者特定もされない）、Web 会議などユースケースによって録音環境は異なるため、環境をよくするために必要な条件も変わってくる。したがって、ユースケース毎に必要な対策を整理し、その変換精度の必要性と比較検証する事で、投資効果の見極めが可能となるのではないか、との仮説が立てられた。また、ユースケース別とは異なり、そもそも必要とされるような期待値に届くためには最低限必要な環境（マイクの有無や、マイクと話者との距離、周辺の騒音状況など）があるのではないかと、との問題提起もされ、前述のユースケースとは別に、基本的な環境条件についても調査が必要との共通認識に至った。

(イ) 目的

・利用に耐えうる最低限の環境条件を調査し、下記ユースケース毎の条件整理の為の基礎材料を設定する。

・ユースケース毎に複数の機材やソリューションで実証する事で、必要な対策（コスト）と求められる変換精度を整理し、現在の技術レベルにおいて最も導入効果の高いユースケースを洗い出す。

※その結果洗い出されたユースケースに必要な機材やソリューションについて共同化を実施する予定。

(ウ) 実施内容 A

- ① 代表的な機材（PC や独立マイクなど）とソリューションを数種類選定する
- ② それぞれの組み合わせ事に、周囲の騒音環境やマイクとの距離を変更して、変換精度との関係性を整理する。
- ③ ②の結果を受けて、「使用に耐えうる、最低限必要な録音環境」を見出す。

(エ) 実施内容 B - ユースケース分析 -

- ① 共同化の対象となりえるユースケース選定する（3～5つのケースを想定）。
- ② ユースケース毎に複数のソリューションと複数の機器の組み合わせで実証を行う。
- ③ ユースケース毎に求められる変換精度を、各団体の担当部門からのヒアリング、および実証結果を通じて標準的な「変換期待値」を設定する。
- ④ ユースケース毎に、実証を通じて「変換期待値」に必要なソリューション及び

機器を整理する（必要コストの見極め）。

⑤ ユースケース毎に、実証を通じて「変換期待値」に達した場合の効果を整理する（導入効果の見極め）。

⑥ ④⑤の結果を元に、最も導入効果が高いユースケースを見出す。

3. サポート業務の範囲

(ア)プロジェクト管理業務

(イ)実証事業事務局業務（業務に必要なソフトウェア等の準備を含む）

(ウ)

(エ)RPA+AI-OCR

① ソリューション及び必要機器に関する情報収集

② 実証計画に対する提言

③ 各団体における RPA シナリオ作成及び実証サポート（シナリオ作成方法の勉強会開催、Q&A 対応、訪問サポート）

(オ)AI 音声文字起こし

① ソリューション及び必要機器に関する情報収集

② 実証計画に対する提言

③ 各団体における AI 音声文字起こし実証サポート（Q&A 対応、訪問サポート）

(カ)実証結果の収集、分析・整理

5 その他留意事項

(1) 複数の団体との共同事業を円滑に行うため、積極的で、且つ個々の団体の個別事情に配慮した適切なコミュニケーションを心がける事。

(2) 仕様書に定めのない事項その他の本業務の進め方等について調整や疑義が生じた場合は、その都度、長野県企画振興部先端技術活用推進課と十分な協議をした上で実施すること。